

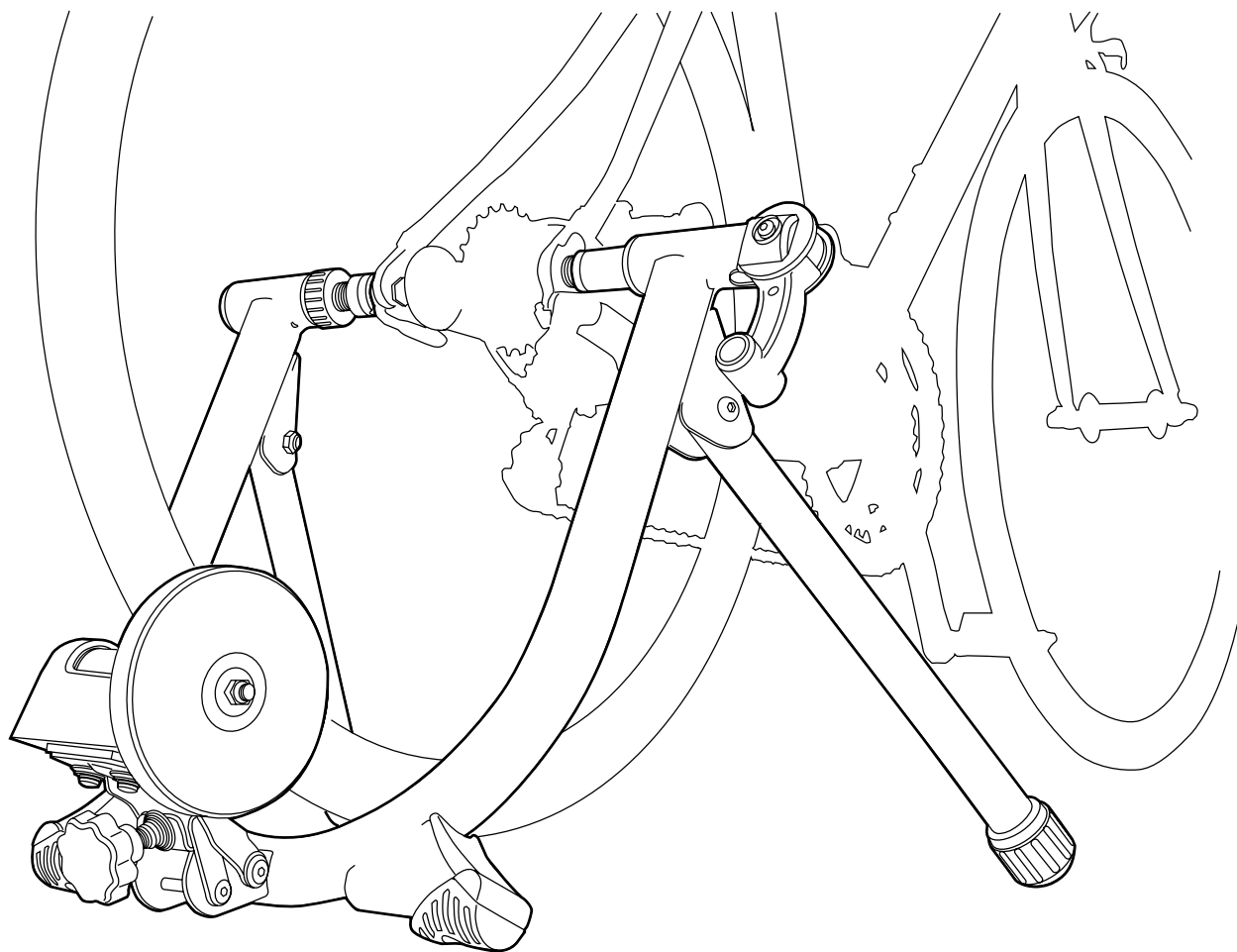
MINOURA V130 (ver.1.7 2012/1)



V130

屋内自転車練習機 取扱説明書

適合タイヤサイズ： 24 インチ～最大 700 x 45c
(タイヤ直径最大 714mm まで)



ご使用前にこの説明書をしっかりとお読みください

<販売元>

株式会社 深谷産業

〒 462-0062 名古屋市北区新沼町 150

Phone (052) 909-6201 / Fax (052) 909-6212

www.fukaya-sangyo.co.jp

<製造元>

株式会社 箕浦

〒 503-2305 岐阜県安八郡神戸町神戸 1197-1

Phone (0584) 27-3131 / Fax (0584) 27-7505

営業： minoura@minoura.jp

カスタマーサービス： infodesk@minoura.jp

www.minoura.jp 日本製

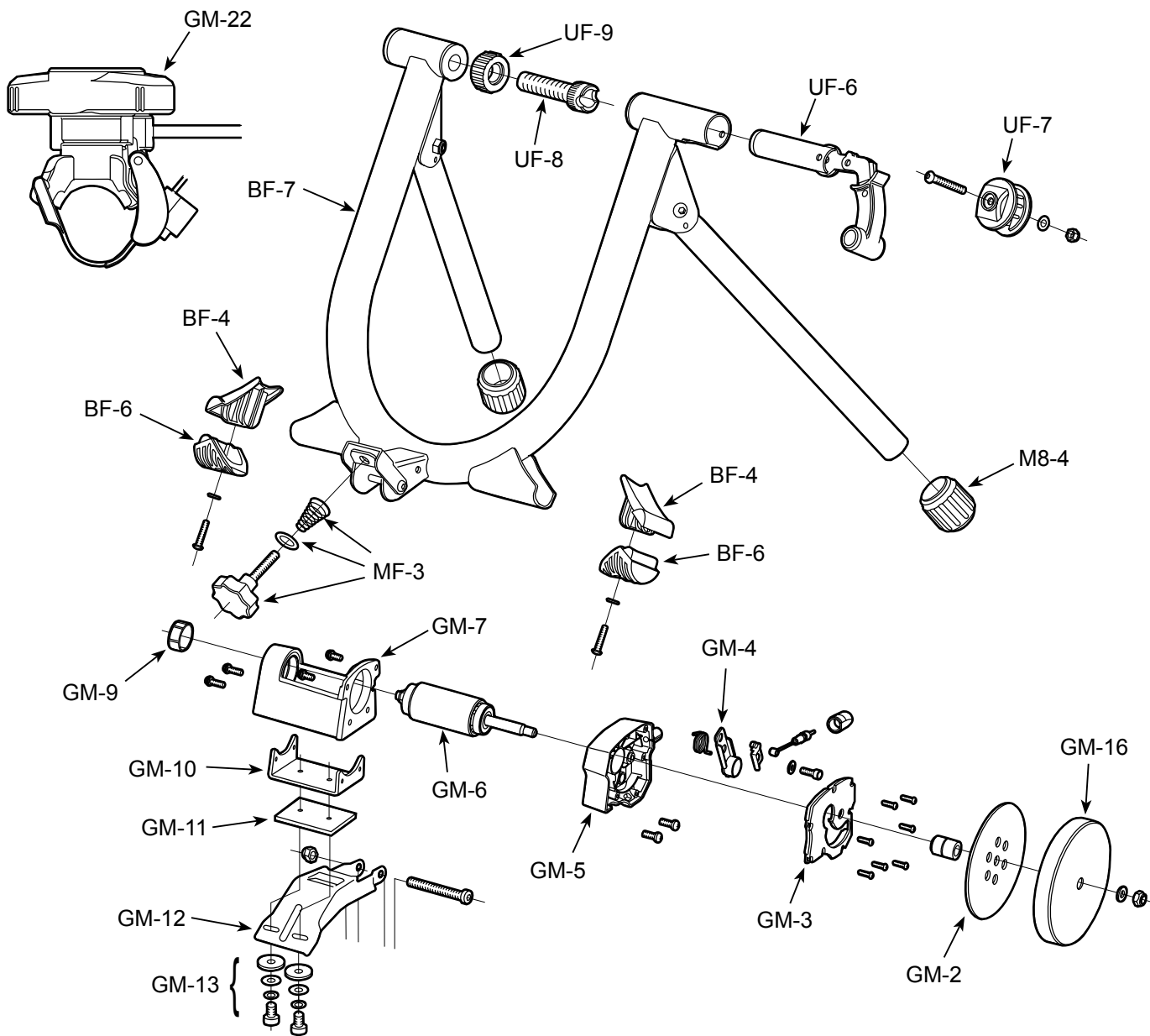
MINOURA

注意していただきたいこと

- 通常の2輪自転車専用です。タンデムやリカンベントなど他のタイプの自転車では使用しないでください。ロングテール車では左右へのバランスに注意してお使いください。
- 後輪ハブ幅 125 ~ 140mm のクイックリリース式自転車専用です。
ハブナットタイプの自転車で使用するには、左側カップリングボルト (UF-8) を別売の「ハブナット式左側カップリング」に交換しなければなりません。
- 20 x 1-1/8 から 700 x 45c までのタイヤに適合します (29 インチは V130 では使用できません)。24 x 1.75 インチ未満のサイズの場合には、添付の「小径ホイールアダプタ」を負荷装置に装着する必要があります。騒音を減らすには後輪タイヤをスリックタイプのものに交換してください。
- 多少の組み立てが必要となります。正しい工具 (10mm スパナ, M4 六角レンチ) を使用してください。工具は付属しておりませんので、ご自身でご用意ください。
- 最大限の安定を確保するため、必ず後輪のクイックリリースを添付のものに交換してください。弊社はご自身のクイックのままでの使用における一切のトラブルの責任を負いかねます。
- 安全のため平坦で水平な床に設置して使用してください。脚はいっぱいを開いてお使いください。
- 構造上タイヤやローラーのある程度の摩耗は避けられません。タイヤ寿命を最大限に伸ばすため、ローラーの後輪タイヤへの押し当て量は正しく調整してお使いください。
- 高速で回転している車輪や回転部に触れると怪我をします。トレーニング中は小さな子供やペットなどを近づけないでください。
- V130 のリモコン式負荷装置をマニュアルレバー式に変更することは、内部の構造上できません。
- トレーニング中にかく汗やゴム脚キャップによる床やカーペットへの汚れ付着や傷付きを防止するため、できるだけトレーナーの下にはバスタオルやマットなどを敷くようにしてください。
- V130 を使用中にもし異常な音やにおいなどを感じた場合は、すぐに使用を中止し、お買い求めになった販売店にご相談ください。弊社への事前の相談なく勝手に分解しないでください。
- 弊社は V130 をご購入された日から起算して負荷装置には 1 年間、フレームには 5 年間の、メーカー側に非のあるトラブルに関しての品質保証制度を設けています。
この説明書で指示されている以外の方法や目的で V130 を使用した場合や、弊社の許可なく分解したり改造した場合には、すべての品質保証が無効となります。
輸送中の落下によるダメージなど工場出荷後のいかなるトラブルについては、弊社ではなく、担当した運送業者に直接お問い合わせください。
詳しくは添付の「製品保証規定」カードをご参照ください。最新情報につきましては弊社ウェブサイトをご参照ください。

V130 構造図

これはトレーナー全体の部品構造を理解していただくために用意した図です。
 ユーザによるトレーナーの分解を奨励するものではありません。
 弊社の事前の了解を得ないまま分解すると、保証を受けられなくなります。



- | | |
|------------------------|--------------------------|
| BF-4: 脚カバー (赤) | GM-4: ネオジウム磁石 |
| BF-6: フレーム脚ゴム | GM-5: 内側ケース |
| BF-7: V130 フレーム (グレー) | GM-6: ドライブローラー&ベアリング |
| UF-6: 右側カップリング&クランプレバー | GM-7: 軸受け |
| UF-7: クランプレバーガイド | GM-9: キャップ |
| UF-8: 左側カップリングボルト | GM-10: つなぎ板 |
| UF-9: ロックリング (赤) | GM-11: 防振ゴム |
| M8-4: 脚ゴム (35mm) | GM-12: 取り付け板 |
| MF-3: ローラー加圧調整ノブセット | GM-13: 負荷装置取付ボルトセット |
| GM-2: アルミローター | GM-16: フライホイール (1.5kg) |
| GM-3: 内側カバー | GM-22: クイック式リモコンシフター (白) |

V130 のセットアップのしかた

必要な工具：1 x 10mm スパナ
1 x M4 六角レンチ

1. まず自転車後輪のクイックリリースを V130 に添付のものに交換します。
カップリング内面の形状のため、弊社は添付のクイックでしかその安定性を保証しません。



もし使用する自転車がクイックリリース式ではなくハブナット式だった場合は、左側カップリングボルト（UF-8）を別売の「ハブナット用左側カップリングボルト」に交換する必要があります。弊社はカップリングボルトを交換しないまま使用した際のいかなるトラブルに対してもその責任を負いかねます。



もし使用する自転車がハブナット式の場合は、添付のクイックリリースは使用しません。なおハブナット式のホイールをクイック式に変更することは、ハブ自体を交換しない限り不可能です（ホイールごと交換してしまうことは可能です）。

2. 負荷装置とローラー加圧調整ノブセット（MF-3）をフレームに取り付けます。（図 A）

まず本体フレームの負荷装置取り付け金具の本体寄りの孔に仮止めしてあるボルトを抜き（図 A-1）、そこに取り付け板（GM-12）をあてがい、孔を合わせてからボルトを通して取り付けます。ボルトは 10mm スパナと M4 六角レンチで締め込みます。

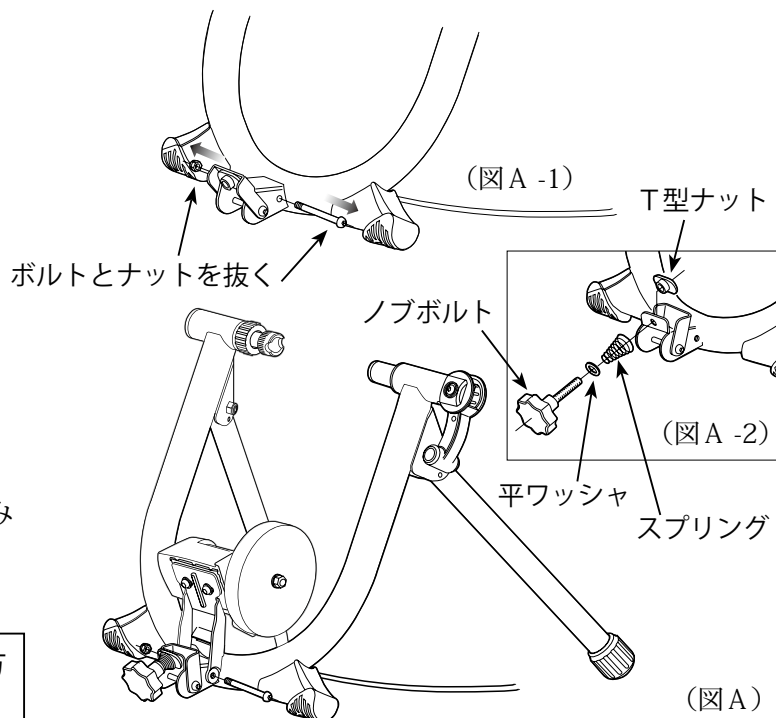


このボルトはあまり強く締め付け過ぎないでください。ノブボルトを回しても負荷装置が上下しなくなってしまうます。正しい締め付け状態とは、持ち上げて手を離れたときに負荷装置が自重でゆっくりと下がってくる程度です。

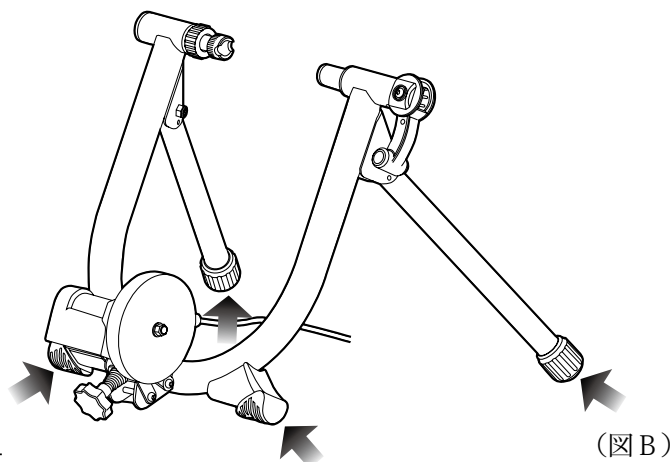
ノブボルトに平ワッシャとスプリングを組み込んでから、板金具の孔の裏側から通した T 型ナットにねじ込みます（図 A-2）。



スプリングは広がっている方が前方になるように組み込んでください。（図 A-2 参照）向きを間違えるとスムーズにノブが回せなくなります。

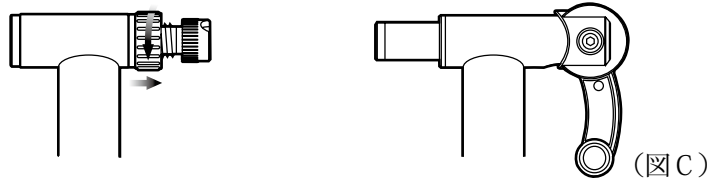


3. 脚の先端にゴムキャップを装着してから、両脚ともいっばいに開き、平坦で水平な床の上に置きます。（図 B）このとき脚が 4 点とも同時に床に接地していることを確認してください。

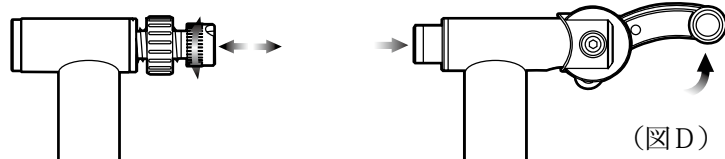


4. 自転車の後輪を左右のカップリングで挟み込んで固定します。

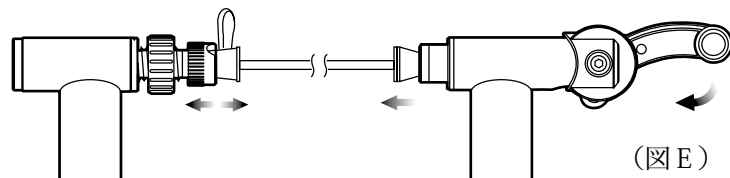
1) ロックリング (UF-9) を緩め、左側カップリングボルト (UF-8) が自由に動けるようにします。(図C)



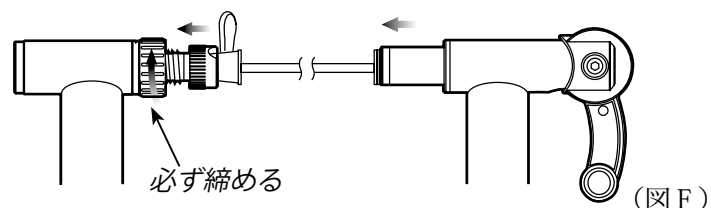
2) クランプレバー (UF-6) を引き上げ、右側カップリングを引き込みます。(図D)



3) まず後輪のクイックリリースのうち左側 (クイックレバー側) を左側カップリングに挿入します。
確実にホールドするため、クイックレバーのシャフトはカップリングの切り欠き部に収まるようにします。カップリングを回して切り欠きの位置を調節してください。



4) この状態を保ったまま自転車をゆっくりと下ろしていき、後輪のクイックのナットが右側カップリングと同じ高さになるようにします。



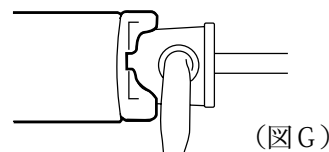
5) クランプレバーを押し下げ、右側カップリングでクイックをキャッチします。(図E)
このときレバーがおよそ4時の位置になったところで抵抗を感じ始めるようであれば、カップリングの間隔調整は適切と言えます。
もしレバーを下ろしてもクランプが緩すぎたりきつすぎたりしている場合は、左側カップリングの位置が適切ではありません。レバーを引き上げていったん挟み込みを解除し、左側カップリングボルトを回して適切な位置に調節し直し、再びレバーを押し下げてクランプしてみてください。

6) 最後にロックリングを締め込んで左側カップリングを固定します。(図F)

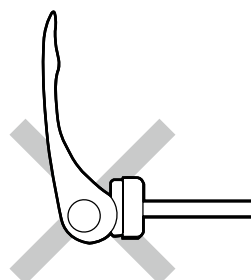


カップリングは左右両方とも添付のクイックリリースにのみフィットする形状としています。特に左側はクイックのヘッド部分が適切にカップリングに収まらなければ、十分な安定性を確保できません。(図G)

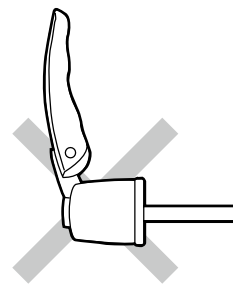
特にレバーがクイックのシャフトの端にあるもの (図H) や、レバーを倒してもシャフトに対して鈍角にしかならないもの (図I) は、V130 では完全に使用できません。



ハブ軸が適切な力でクランプされるよう、左側カップリングの位置は正しく調節してください。きつ過ぎるクランプはV130 や自転車のフレームに対してストレスを与えるので不適です。また緩過ぎるクランプでは、使用中に自転車が脱落してしまう恐れがあり危険です。



(図H)



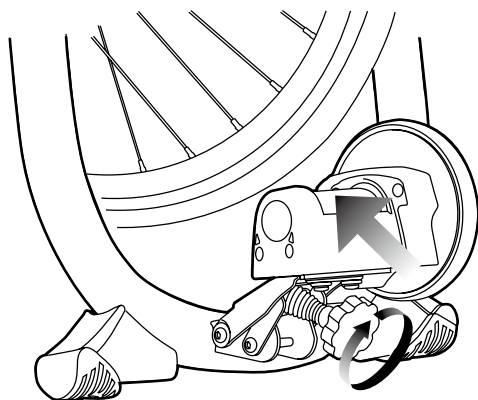
(図I)

5. ローラー加圧調整ノブを回して、ローラーを後輪タイヤに接触させます。(図J)
適切な押し当て量とは、ローラーがタイヤを3～4 mm 程度の深さで凹ませている状態です。(図K)

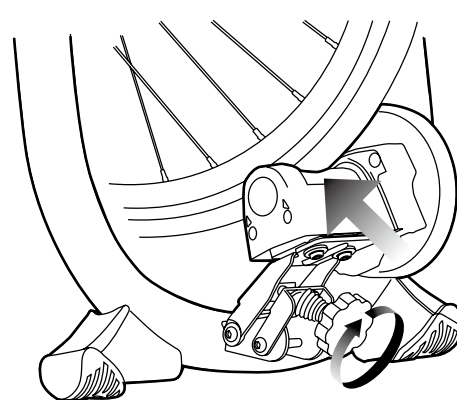


強すぎたり弱すぎるローラーの押し当ては、タイヤを異常に早く摩耗させてしまうということを認識してください。特に強すぎるとバーストをも招いてしまいます。
また V130 の使用前にタイヤの空気圧を適切に調整しておいてください。

ヒント ローラー加圧調整ノブが重くて回しにくい場合は、負荷装置を手で持ち上げて先にローラーをタイヤに接触させておいてから回すようにすると軽く回すことができます。



(図J)

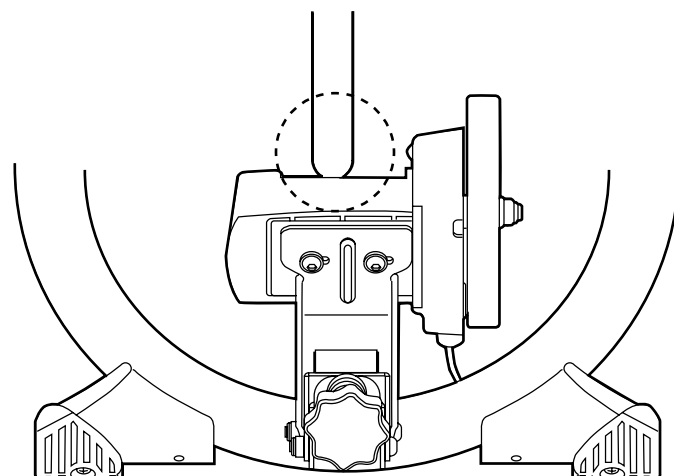


(図K)

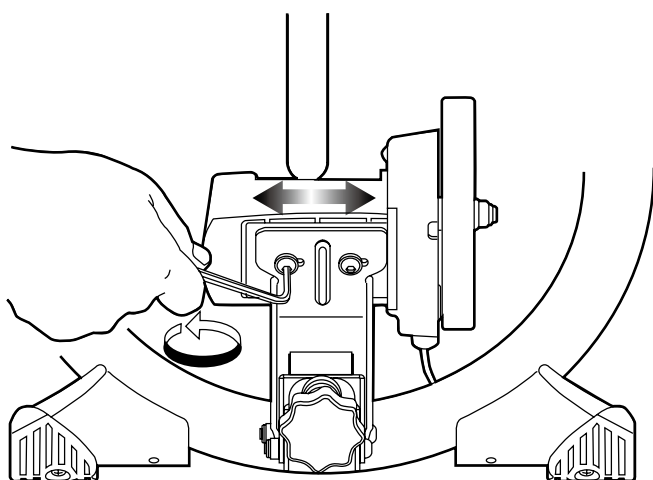
6. 後輪はローラーのほぼ中央部に来て、他の何にも接触していないことが必要です。(図L)
もしタイヤが太すぎたりホイールが振れているなどの理由でタイヤが樹脂部品に接触してしまっている場合は(図N)、あらかじめ負荷装置の位置を変えておかなければなりません。

それには M5 六角レンチで負荷装置裏側のボルトを2本とも緩めて、負荷装置の位置を左右に微調整します(図M)

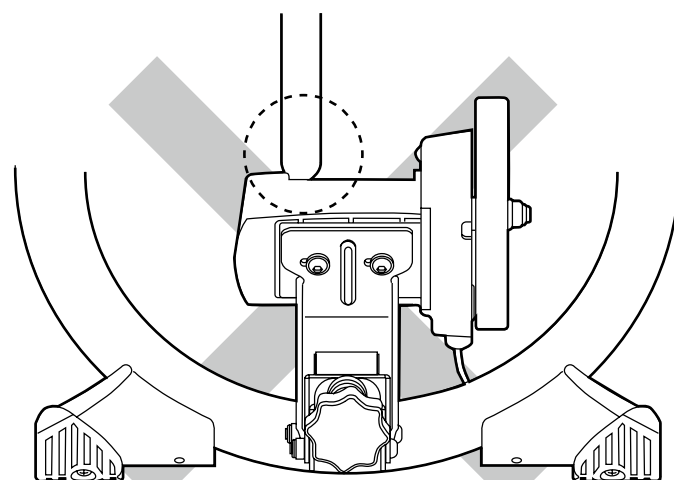
調整したあとは再びボルトをしっかりと締め込んでおきます。



(図L)



(図M)



(図N)



もしタイヤがローラー以外のものに接触してしまっている場合は、その部分が摩耗し、またタイヤも異常摩耗してしまいますので、絶対に避けてください。



左側カップリングの位置を変更することでホイール全体の位置を変えることはできません。
左側カップリングはハブ幅の調整しか行なえません。

- 7.** 自転車を V130 から取り外す際は、まずローラー加圧調整ノブを緩めておいてからクランプレバーを引き上げてください。
ローラー位置を変えないまま自転車を取り外してしまうと、次に自転車を装着する際に後輪がローラーで押されているため困難になってしまいます。

リモコンシフターの使い方

必要な工具：M4 六角レンチ

V130 には便利なリモコンシフターが標準装備されています。シフターをハンドルバーやステムに装着しておくことで、いちいち自転車から降りることなく希望の強さに負荷を変えることができます。またリモコンシフターと併用して自転車側のギアを操作することでも、負荷の微調整を行なうこともできます。クランプバンドは薄く柔軟性のある樹脂製なので、エアロ形状のハンドルバーにもフィットし、しっかりと緩みなく取り付けられます。

リモコンシフターの装着方法：

- 1) ハンドルバーなどにシフターのクランプバンドを巻き付ける。
- 2) バンド先端のフック部をシフター基部の溝に掛ける。
- 3) レバーを引き上げて、バンドを締め上げて固定する。

リモコンシフターのクランプバンドはあらかじめ直径 22 ミリの標準サイズのハンドルバーにおおよそ合わせてあります。もしそれがきつ過ぎたりゆる過ぎたりする場合や、あるいはステムなど他のサイズのものに取り付ける場合には、M4 六角レンチでバンド根本にある樹脂ネジを回してクランプバンドを調整し直してください (図Q)。(六角レンチは付属していませんので、ご自身でご用意ください)



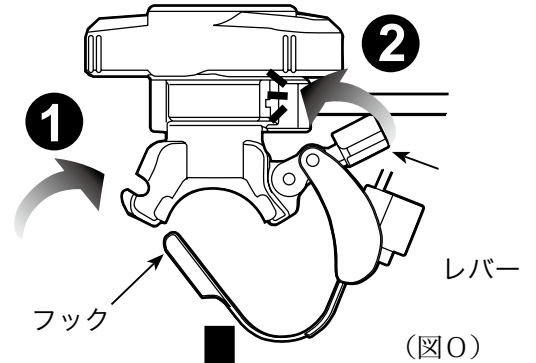
ネジもバンドも樹脂製なので、無理に回そうとすると壊れてしまいます。そのためバンドのフック部はあらかじめ外しておいてから調整してください。

負荷の上げ方：リモコンシフターのレバーを「H」方向に回す。

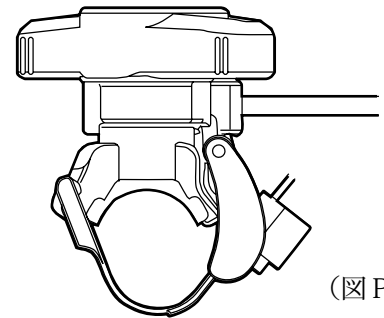
負荷の下げ方：リモコンシフターのレバーを「L」方向に回す。



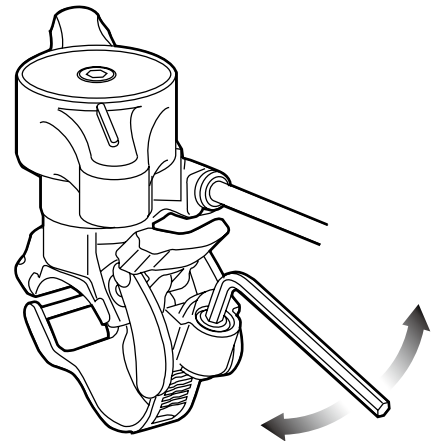
「L」位置は負荷ゼロではありません。
L であってもローラーがタイヤを押し付けることによる最小限の負荷は常にかかっています。



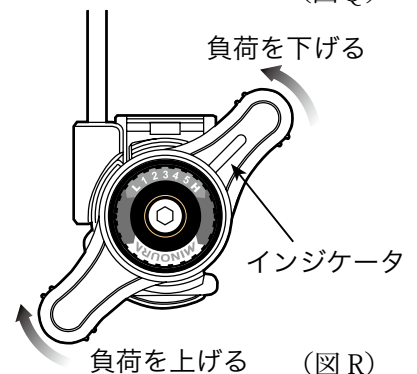
(図O)



(図P)



(図Q)



(図R)

リモコンがうまく動かないときは

まず最初に、アウターケーブルがリモコンシフターから外れてしまっていないかを確認してください。

リモコンシフターに使用しているケーブルはあらかじめ伸びを取ってありますが、それでも使用しているうちにケーブルが伸びてきて、いちばん端のLやHにセットできなくなることがあります。

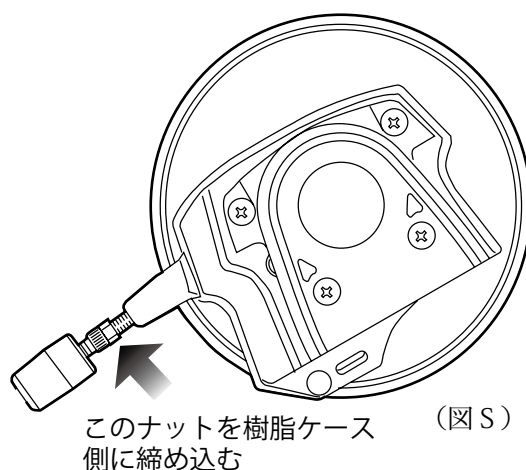
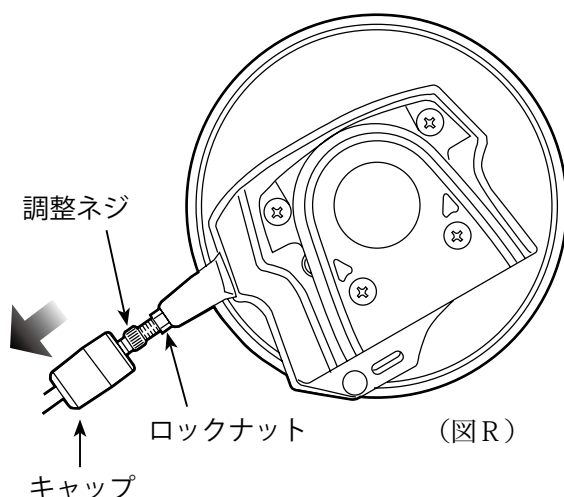
その時は以下の方法でケーブルのテンション調整を実施してください。

1. まずリモコンシフターを「H」にセットする。
シフターをハンドルバーから取り外して、ケーブルをなるべくまっすぐに伸ばして床に横たえる。
2. ケーブルの根本にある黒い樹脂キャップを引き抜く。(図R)
3. ケーブルのテンション調整ネジが現われるので、ボルト部分をアウターケーブル側に押し付けたまま、ロックナットを負荷装置側に当たるまで回す。



ロックナットは樹脂ケースに軽く当たるまでで十分です。
強く締め込む必要はありません。

4. 樹脂キャップをかぶせ直す。



小径ホイールアダプタの使い方

必要な工具： 1 x 10mm スパナ
1 x M5 六角レンチ

24x1.75 インチサイズより小さなタイヤで使用する場合は、添付のZ型をした「小径ホイールアダプタ」を負荷装置と取付板との間に装着してローラーの位置を上げなければ、タイヤはローラーに届きません。

アダプタの装着方向は、天面に印刷してある矢印の向きを自転車の進行方向に合わせてください。
もしこのアダプタを装着してもまだタイヤがローラーに届かない場合は、装着方向が間違っています。
確認してみてください。

もともと付いていたキャップボルトはアダプタを取付板に装着するのに使い、添付の六角ボルトは負荷装置を装着するのに使用してください。

